

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成21年3月19日 (2009.3.19)

【公表番号】特表2008-533278(P2008-533278A)

【公表日】平成20年8月21日 (2008.8.21)

【年通号数】公開・登録公報2008-033

【出願番号】特願2008-501882(P2008-501882)

【国際特許分類】

C 1 0 M 169/04 (2006.01)

C 1 0 M 173/02 (2006.01)

C 1 0 M 105/74 (2006.01)

C 1 0 M 133/04 (2006.01)

C 1 0 M 145/40 (2006.01)

C 1 0 N 30/00 (2006.01)

C 1 0 N 30/06 (2006.01)

C 1 0 N 40/00 (2006.01)

C 1 0 N 40/32 (2006.01)

【F I】

C 1 0 M 169/04

C 1 0 M 173/02

C 1 0 M 105/74

C 1 0 M 133/04

C 1 0 M 145/40

C 1 0 N 30:00 Z

C 1 0 N 30:06

C 1 0 N 40:00 Z

C 1 0 N 40:32

【手続補正書】

【提出日】平成21年1月28日 (2009.1.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

a) アルキルアルコキシル化リン酸エステル、

b) アミン酢酸塩、および

c) アルキルポリグリコシド界面活性剤

を含むコンベヤー潤滑剤の濃縮組成物。

【請求項 2】

ノニオン性界面活性剤が応力亀裂を促進しない、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

前記組成物が低発泡性である、請求項 1 又は 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

a) アルキルアルコキシル化リン酸エステルが約 1 から約 20 w t % 存在し、

b) アミン塩が約 0.5 から約 25 w t % 存在し、そして

c) ノニオン性界面活性剤が約 0.5 から約 10 w t % 存在する、請求項 1 ～ 3 のい

いずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 5】

前記組成物が水で希釈されて希薄潤滑剤溶液が形成されている、請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 6】

低発泡性のコンベヤー潤滑剤の使用溶液組成物であって、

- a) アルキルアルコキシル化リン酸エステル、
- b) アミン酢酸塩、
- c) アルキルポリグリコシド界面活性剤、および
- d) 水、

を含み、すべての発泡が発生と同程度の速度で実質的に消失する組成物。